

# 艺术观察

第三十八号

福州大学艺术文化研究会编辑部

# 巻頭詩

誰かに呼ばれた気がして 少し振りかえってみたけれど  
見知らぬ奴と目があって なぜか笑われた気分になる

あの日話してくれたのは きっと本当の君の夢だった  
遠く違う空の下で 君は何を見つめてる

空よ空よ 見上げた数だけ想えば  
強く強く ひたむきに行くさ

ふとした事でつまずいて 俺は下ばかり見ていたのさ  
自分の影に押されて そっと歩いてはみたけれども

あの日話してた調子で だけど今も本当は語りたい  
遠く違う空の下で 君は何を見つめている

空よ空よ 見上げた数だけ想えば  
強く強く ひたむきに行くさ

あれからどれだけの事を 君は確かめたのだろうかと  
今なら聞ける気がして 少し切くはなるけれども

とまどう時にも君は いつも優しい目をしていた訳が  
遠く違う空の下で 俺にもわかりかけてる

空よ空よ 見上げた数だけ想えば  
強く強く ひたむきに行くさ

空よ空よ 見上げた数だけ想えば  
強く強く ひたむきに行くさ

陣内 大蔵 「空よ」より

## 《第三十七代基本方針》

我々書道部は、これまで三十六年間、先輩方が築いてこられた伝統を見つめ直し、目的意識のある練習・行事を行なう。その中で部員一人一人が書技の向上を図るとともに、積極性・けじめ・思いやりを持ち、部員相互の絆を強固なものにすることにより人間形成の場とし、結束力のある部としていく。

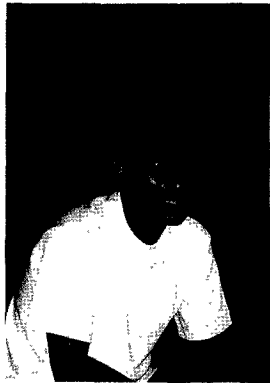
又、対外的な交流に於ても積極的なアピールを図り活動の場を広げ、より一層結束力のある部を築いていく。

## 《第三十八号「荒鷺」発刊にあたって》

この度、我が書道部の機関誌であります「荒鷺」を発刊できますことは、部員一同にとり誠に喜ばしいことであります。書道部は、昭和三十五年の創部以来現在まで、著しい発展を遂げてきています。これからも諸先輩方が築き上げてこられた良き伝統を胸に、又、時代に即した部の運営・活動を以て更なる発展・継承をしていくことが我々現役部員の使命であると考えております。

最後になりましたが、「荒鷺」第三十八号発刊に際し、多大なる御尽力を賜りました諸先輩方、関係者各位に厚く御礼申し上げます。

第三十七代幹事 過能 友和



講 師  
大原 蒼龍



部 長  
青木 文夫



幹 事  
過能 友和



会 長  
柴田 一夫

# 目次

|                      |    |    |
|----------------------|----|----|
| 巻頭詩                  | …… | 一  |
| 第三十七代基本方針            |    |    |
| ・ 荒鷺発刊にあたって          | …… | 二  |
| 七隈祭展示作品・賛助作品         | …… | 六  |
| 特別寄稿                 |    |    |
| 書道部部长 青木 文夫          | …… | 二〇 |
| 新講師となつて              |    |    |
| 講師 大原 蒼龍             | …… | 二〇 |
| 恩師赤木石掃先生への感謝の言葉      |    |    |
| 書心会会長 柴田 一夫          | …… | 二二 |
| 書道はデジタル時代に生き残れますか？   |    |    |
| 昭和五十三年度卒 堤 寛         | …… | 二二 |
| 目標はできるだけ大きく持つ        |    |    |
| 平成八年度卒 森田 国昭         | …… | 二三 |
| 大学生について思うこと          |    |    |
| 学術文化部会常任幹事会幹事長 田中 亮  | …… | 二三 |
| 「祈・発展」福大書道部・連盟そして書道と |    |    |
| 第三十七期連盟運営委員長 渡辺 耕平   | …… | 二三 |

|                  |    |    |
|------------------|----|----|
| 部員寄稿             |    |    |
| 憧れ               | …… | 二六 |
| 家族               | …… | 二九 |
| 出発（たびだち）         | …… | 三三 |
| 自由投稿             | …… | 三五 |
| 年間行事報告           | …… | 三七 |
| 一年間を振り返つて        | …… | 四二 |
| 福岡大学学術文化部会書道部部規約 | …… | 四三 |
| 福岡大学書道部書心会規約     | …… | 四七 |
| 部員・書心会名簿         | …… | 四七 |
| 平成九年度役員名簿        | …… | 五三 |
| 編集後記             | …… | 六八 |

第四十二回

# 七隈祭展示作品

テーマ「躍動」

歐陽詢 『九成宮醴泉銘』

一回生 梶山 敦子

有淒清之涼信安體之佳所誠  
養神之勝地漢之甘泉不能尚  
也皇帝爰在弱冠經營四方建  
乎立年撫臨億兆始以

敦子 臨

顏真卿 『顏勤礼碑』

一回生 東島 道子

釋迦分身遍滿室界行動聖現一業淨  
感深悲生悟中淚下如雨遂布衣食不  
出戶庭滿六年誓建茲塔既而道子

黄庭堅『李太白憶旧遊詩卷』

二年 竹下 よし子

王鐸『臨王渙之帖』

二回生 原 康洋

運山隱居... 使古詞頗多歲月今屬天寒擬意  
遠為寄... 念物遠修不能追承可  
鄒陽歸鄉承嶠東轉為理... 卷一

米芾『得枕帖』

二回生 大場 智子

一... 終不... 各舟... 國生... 泛海... 實... 甚... 泉... 亦... 門... 錄... 卷一  
... 况... 下... 滿... 林... 在... 寺... 也... 兼... 書... 應... 亦... 儻... 然... 見... 乎... 力... 乎... 海...  
... 舟... 承... 海... 三... 日... 尔... 海... 望... 三... 目... 山... 亦... 尔... 潔... 冠... 所... 者... 國... 亦... 三... 堂...  
... 卷一... 心... 乎... 何... 甘... 貧... 未... 漢... 九... 七... 卷一... 初... 畢... 卷一

意通然老

松魁梧敷

百未芥斤

所故今卷

天風鳴娟

皇五十弦

洗耳不須

菩薩三二

于甚好賢

力貧買酒

附... 卷一

黃庭堅『松風閣詩卷』

二年 萩原 裕子



董其昌『菩薩藏經後序』

二回生 石橋 幸惠

陛下轉輪垂拱而化漸鷄園朕極極而  
神爰驚宿終期御於微神正文思之所觀  
極極於於于豈象象之所播由是

西風子  
家或孫  
敦在遷  
煌安于  
枝定雍  
外或州  
葉靈之  
布志郊  
所都外  
或此  
居右  
附錄

『曹全碑』

二回生 山根 芳子

楊維『城南詩卷』

二回生 大場 智子

有士風人思傲於考亭不惟曰文公之亦不敢  
評其信然耶抑別有所指示之豈是之耶青  
玄論詩者曰詩之別於尤異也也也  
中堂玉信

王鐸

二回生 福田 尚德

漢之書曰不害之政市也後易曰  
直者王矣對彼倫叙之履社道全矣  
東王曰初初亦善速始如復小尚德

董其昌『酒德頌卷』

三回生 進藤 久美子

看夫人先生以天地為一物亦期若酒  
月為扁鵲心若若而處陰行吾物外  
幸至奉 唐天序如於意而此 久美子

劉宋『爨宝子碑』

三回生 中島 沙織

爨寶子寶子達寧同樂人  
少粟疎傳之質長挺高選  
通曠清恪發自天然

吳昌石『群燕圖』

三回生 平 由美子

此卷係畫與畫並入者  
 丁巳仲夏  
 吳昌石畫  
 此卷係畫與畫並入者  
 丁巳仲夏  
 吳昌石畫

吳熙載

三回生 過能 友和

人馬先生事漢武帝  
 離震數經居藝御  
 不習盡巧經日而

董其昌『風圖詩卷』

三回生 荒木 綾子

四月露相份相逐  
 巨舉三推七籍  
 田青  
 作四月新  
 條然大秋  
 竹首相陵青  
 可信  
 春未足  
 別國  
 曲阜  
 卷履  
 烏作  
 子

『清信女黃法僧造像』

三回生 進藤 久美子

得樂居家恒与善會  
願脩口進心念無  
久美子

張瑞圖『西園雅集』

三回生 中島 沙織

心者為春之信也  
尾知字道服持杖者  
居居屋中一區衣冠首  
西亦石者為米元  
和手而防脉者為子仲  
至亦有幅中藏

西川寧『臨賣思伯碑』

三回生 平 由美子

青暮派愛屋之歌  
垂芳河濟欣乘燕之  
可謂動化盛刊方來  
何述前治中從事夫  
以回方祇以緒感忠  
德風源遐緬載  
東蓮

王鐸『家中南澗作』

三回生 過能 友和

天寒甚矣 拂一 相 始 日 莫  
家 世 家 評 仍 係 三 年 人 事 歸 石 街  
本 野 堂 卷 宣 中 南 澗 以 之 七 日  
日 年 年 年 年

創作

四回生 緒方 勝則

中 氣 正 不 揚 自 嘆 樂 亦 受  
活 福 不 復 施 對 君 洗 紅 粧 仰 祝 百 壽  
不 為 變 翻 人 事 多 錯 迷 自 君 永 相 相 望 各 對 年

同 今 日  
醉 不 知  
五 柳 春  
琴 本 無  
紅 漣 酒  
用 葛 巾  
清 風  
意 下  
是

『李白五言古詩』

三年 荒木 綾子

『般若心教』 四回生 松本 まり子

般若心經の要義を簡明に述べ、修行の要諦を説く。凡そ一切の苦は皆無常なるが故に、執着を離れ、空性を悟ふべし。此の要諦を簡明に述べ、修行の要諦を説く。凡そ一切の苦は皆無常なるが故に、執着を離れ、空性を悟ふべし。

吳昌石『前赤壁賦』 四回生 青木 孝弘

赤壁の戦いを記し、自然の美と人生の感慨を述べた。蘇軾の『前赤壁賦』の要旨を簡明に述べ、修行の要諦を説く。凡そ一切の苦は皆無常なるが故に、執着を離れ、空性を悟ふべし。

高野切一種

『高野切一種』 四年 竹井 智子

張瑞圖『西園雅集』

四回生 橫山 有美子

李伯時幼唐少李將軍，骨色氣石雲物，  
木老似妙絕，秀人而人物有皮，各有其形，自有林  
下風采，無點塵埃，豈不為仙筆也。有美子。

王鐸『行書五律五首』

四回生

濱地 宣充

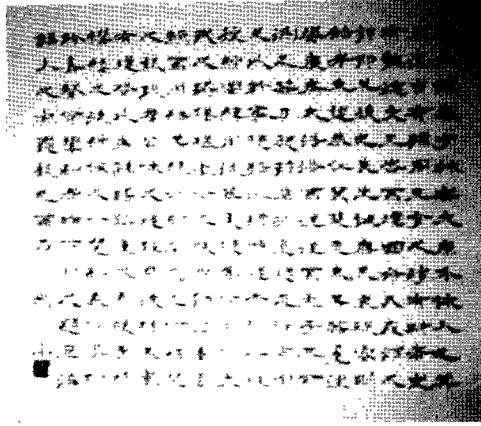
湖海垂轉入，去盡心，近由清光，已旅城，道照深  
幽，以，佛古畫，被，聖，漫，向，尊，浦，雲，能，自，敬，道  
與，道，情，親，况，望，替，光，表，開，以，多，  
宣充

『小子爨白』

四回生 青木 孝弘

非  
爨  
白  
孝  
弘

四回生 西江 光由



峴場 『臨古四種卷』



鄧石如 四年 緒方 勝則

文徳  
之甘  
栄美

エイミー

如武  
壹海  
水理

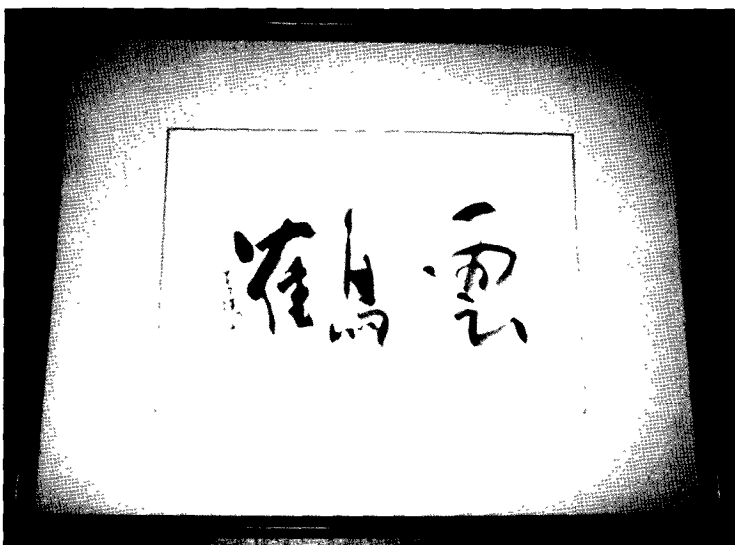
ハイリ

文徳  
之泉

メル

交換留学生の体験入部の際の作品

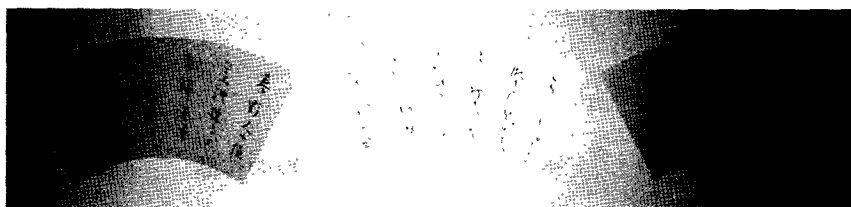




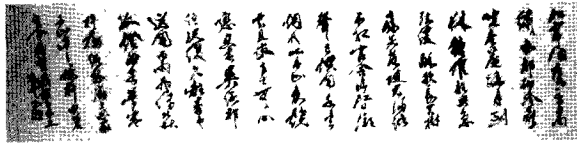
昭和五十八年度卒 中村 純一郎



講師 大原 蒼龍

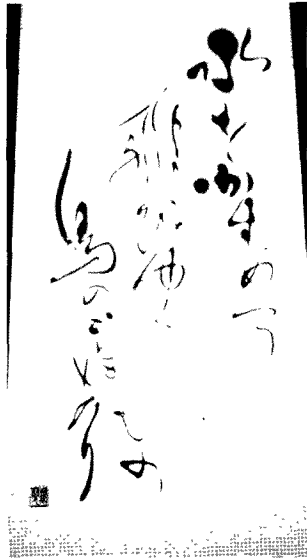


昭和五十八年度卒 満生 憲親

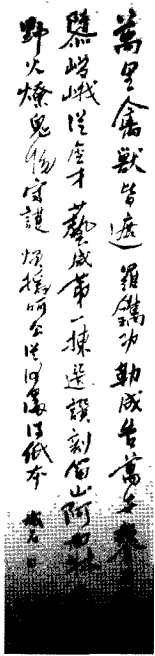


昭和五十九年度卒 石橋 正隆

平成七年度卒 牧本 朋子



平成八年度卒 今西 衛



特別寄稿

書道部の将来を見据えて

書道部部长 人文学部教授 青木 文夫

少数精鋭ながらも、三回生の役員を中心に今年の揮毫大会を見事に運営した部員諸君には、心からお礼を言いたいと思います。しかしながら、少数精鋭という言葉を用いなければならぬのはどうしてかと思われるでしょう。

実数については、ここで詳しく述べませんが、今年の新入部員数は、往年の隆盛を知る諸先輩にとつては、少なからず驚きではないでしょうか。様々な要因があると思いますが、書道人口が急速に減っているとも思えません。むしろ、揮毫大会の参加者数や技術のレベルをみれば、高校での書道の地位はまだまだしつかりしたものだと言つてよいでしょう。

しかしながら、毎年五千人以上の新入生を迎える福岡大学の今年の書道部の新入部員の実数が心配すべきものかどうか、たまたま今年だけの話に終わるのか若干判断が難しいところです。

高校で書道に専心していた学生がいるはずでは、いろいろな疑問が脳裏をかすめますが、一つ、実に単純な理由が新入部員数に関係しているようなのです。

「友達と一緒に」がキーワードです。勿論、もつとしつかりした理由で入部して、信念を持って書道に取り組んでいるものもあります。しかし、このキーワードが実際には大勢を制しているように思えてなりません。私の杞憂であればよいのですが。

さて、現役、先輩の皆さんは、このことをどう思われるでしょう。

時代の流れだから、どういふことに留意して部員勧誘に努めるべきでしょうか。それとも、そのようなことは考慮せず、

従来通りの部員の勧誘を続けるべきでしょうか。

このことについては、私も非常に迷いを感じます。折衷案の様なことも考えられるかもしれませんが、ただし、一つだけ言いたいのは、同学年の友人がいない部員が退部することなく活動に参加し、技術を向上させ、孤立しないような雰囲気のある部にして欲しいということです。「そんなこと分かっています」と言う声が聞こえそうですが、もう一度本当にそうかどうか考えてみてください。先輩後輩の絆とはどんなものか、はつきりと答えを出して部活動を続けてください。ということとは、先に述べた問いかけに対する私の答えも分かっています。

「新講師となつて」

書道部講師 大原 蒼龍

平成九年四月二日、福大書道部員と初めての対面である。薄暗い階段を上つて部室を覗いた後、少々緊張した面持ちで日本間に通された。「こんにちは」非常に元氣のよい礼儀正しい挨拶で部員が私を迎えてくれた。伝統ある福大書道部の講師、而も有名な赤木石掃先生の後を引き継いだとあって、期待以上に不安とプレッシャーが私に大きいのしかかっていた。

思えば十年前、私は大東文化大学に入学した。学生時代の私は、師を古谷蒼韻としながらも、幅広く書を学びたいという気持ち強く持ち、授業や他社中の友人たち、または筑波大学や新潟大学等の学生たちからそれぞれの運筆方と学書論を吸収して来た。卒業後は師の近くに住み、奈良教育大学大

めるべきでしょうか。それとも、そのようなことは考慮せず、

を吸収して来た。卒業後は師の近くに住み、奈良教育大学大

学院と京都の書壇で多くの書を学ばせてもらった。まだまだ  
学書不足は否めぬが、書が好きで幅広く探究したいという気  
持ちは培ってこれたかと思っている。

学生諸君、おもいつきり私にぶつかって来て欲しい。もつ  
と私を利用して欲しい。それを受け止め得る受け皿と、ネッ  
トワークは持っているつもりだ。情熱を持って私と共に勉強  
していただくのではないか。将来、県展入選等は当然の事とし  
り、九州の芸術文化に貢献できる人材が出てきてくれること  
を期待して止まない。また、それが講師としての私の目標の  
一つでもある。

### 恩師赤木石掃先生への感謝の言葉

書心会会長 柴田 一夫

書道部が同好会として産声をあげたのが昭和三十四年、そ  
の三年後の昭和三十七年に、書道部の講師として三十五年間  
の永きにわたりご指導を願ったわけですが、書道部の歩み全  
てが赤木先生と共にあったと言っても過言ではありません。

その赤木先生がこの度、諸々のご事情で書道部の講師をご  
退任されることとなりました。

赤木先生の永年のご功績と感謝の意味で去る五月三日午後  
四時より福岡天神平和楼に於きまして書道部及び書心会合同  
の謝恩会を開催いたしました。多数の来賓も含め総勢  
名で大広間に入りきれない参加者でした。これは何を言わん  
や、赤木先生の人望と赤木先生に対する感謝の表れであった  
と思います。

赤木先生が三十五年間にご指導頂いた部員は悠に三百名を

超えています。その教え子は日展入選延べ六名、福岡県展  
が特別賞も含んで延べ約百四十名、その他読売書法展各県の  
入賞者を数えると数百名に及ぶものと思われれます。

また、書道を職業としている者も十名程おり、書道界に福  
大書道部は燦然と輝いております。この実績からしても赤木  
先生のご指導のすばらしさが伺えますが、赤木先生は書技の  
向上のみならず、兄貴となり、父親となつて、現役の時のみ  
ならず、卒業してからも公私共に良き相談相手となつていた  
だけ、人生の先輩として尊敬を集めておられます。

先生への感謝の言葉は尽きませんが、今後ともますますの  
ご活躍とご健康をお祈りいたします。

赤木先生の後任には、若い新進気鋭の大原先生をお迎えす  
る事ができました。三十七年の歴史とは別に、現代気質の書  
道部員をいかに引つ張って行つていただくか、大変ご苦勞を  
おかけする事となりますが、大原先生の若さで新しい書道部  
の育成をお願いするものであります。

書道はデジタル時代に生き残れますか？

昭和五十三年度卒 事務局長 堤 寛

先日第37回会西日本高等学校揮毫大会が第一記念会堂にお  
いて、執り行なわれ、席上揮毫・当日審査、そして後日表彰  
式が無事終了しました。今回は現役諸君からの要請もあり、  
フルタイムで、参加してみました。(打ち上げも参加、あい  
も変わらず「高砂」の料理はうまい???)

私が大会委員長で演台に立ち、「高校生のみなさん、おは  
ようございます。ようこそ、この七隈の地に・・・。」と挨拶

移して、もう20年がたちました。大変な時間がたつたものです。自分の青春の全てをぶつつけたつもりだった4年間でした。卒業してしばらくは、そのままの感覚で現役の学生と接してきたように思います。今思えば、時間の経過が見えていなかったように思います。

今回の大会は、私たちの頃に比べると、三分の一から四分の一の人数でよくがんばっていました。最後のかたづけが終了して、幹事の言葉を聞いてみると、なぜかグツとこみ上げてきて感動しました。

さて、時間の経過とともに、今ほとんど筆を持つこともなくなつた自分が情けなくなりそうです。

世の中はインターネットをはじめとするデジタル時代へ突入し上へ下への大騒ぎです。世の中の物すべてがデジタルに置き換わるような勢いです。しかしよく考えてほしいのです。果たして、この世の中からアナログはなくなるのでしょうか？ここで少し身の回りのことに注意してみましよう。手書きの文字文化がだんだん忘れられつつあります。

まず、一つは電話の普及により手紙等によるコミュニケーションが極端に減少しています。巷の郵便物のほとんどは、商業DMとワープロで打たれた案内状や招待状それに、これが一番多いのかもしれないが、各種懸賞の応募葉書・テレビ、ラジオのリクエスタ葉書です。文字の文化、ふみ「文」の文化が無くなるうとしています。われわれのコミュニケーション手段の一つを自ら失おうとしてはいませんか。我々は少なくとも「文字」に対し一度は興味を持った仲間です。この機会に是非みなさん考えて下さい。絶対にアナログはなくなりません。手紙を書きましょう。

もう一つは、日常文字を書かなくなつたことです。ワープロの普及がもっとも影響を与えたかもしれない。しかし、

ワープロで打つた文字はみんな同じように見えて個性がありません。自分でも最近漢字の物忘れがひどく、自己嫌悪に陥ってしまいがちです。人間毎日手先を動かしたり頭を使わなければどんだん退化していきます。やはり、落書きでも（昔部室でやっていた）何でもいいから、やらなければと思いません。

デジタル時代だからこそアナログが生き残らなければならぬのです。いずれデジタルに疲れた連中が昔を懐かしんでアナログを探しに戻ってくるのです。その時は、みんなで書道教室を開きましょう。これで老後の生活は安心ですね？

本当に書道部に入つてよかつた。と言える日がいつ来るのでしょうか？それは、在学中よりもむしろ、卒業後の過ごし方のほうが問題ではないでしょうか。（と言いつつ、M&Pと言ふワープロを打っているのです。書心会のホームページを作りましようか？）

目標はできるだけ大きく持つ

平成八年度卒 森田 国昭

社会へ飛び出し、もうすぐ一年という年月が流れようとしている。

この一年間は、何の為に働くのか、何に情熱を注ぐべきかを常に考えた一年となつた。自分自身の経歴を振り返ると、高校時代までは好きなことをやってきた。大学に入り、書道部と出会つた。自分自身をすべてかけることのできる環境があつた。それにより、没頭することができた。書道部とは、私にとっていい環境であつたが、隣の部の芝生が青く見える

もう一つは、日常文字を書かなくなりましたことです。ワープロの普及がもっとも影響を与えたかもしれません。しかし、

こともあった。外から見ても思える部でも、実際に見てみると様々な問題はある。どこにいつてもいいところ、悪いところはあるものだ。

私自身、書道部に籍をおいている間、悩みから開放されたことは一度もなかった。しかし、どうせ悩むのなら前向きな姿勢で頑張りたいと考えた。

学生時、私には、常に大きな目標があった。それを簡単に達成させる環境はどこにもない。逆風が吹くことのほうが多い。その時、どう立ち向かうかは自分自身の問題である。

書道部には、夢を達成することのできる環境がある。それを見つけてほしいのだ。エネルギーを一点に集中し、ぶつけていく価値は計り知れない。又、「自分はそのままでもいいのか」という悩みは四年間のうち、必ず誰しも一度は訪れる。その時、自分にどう問う、行動するかが大切である。

私にとって、何か新しいことをやりたいと思った時、それを受け入れてくれる書道部いうものは最も偉大なものであった。既成にとらわれることなく枠を飛び出し、新しいフロンティアを目指すことができた。書道部とは生きる本当の知恵であり、楽しみであった。

そして今後も悩む日々が続いていく。書を通じて学んだことを大きな宝とし、力強く生きていきたい。

大学生について思うこと

学術文化部会 常任幹事会幹事長 田中 亮

現在の大学生はよく無気力、無責任、無関心と批評されている。大学に入学したものの、何をして良いのか分からず何

あった。それにより、没頭することができた。書道部とは、私にとっていい環境であったが、隣の部の芝生が青く見える

気なく講義を受け、遊ぶためにアルバイトをするといった学生が大半を占めていると考えられているから、それも当然なのではないだろうか。

戦後の日本においては、その目覚ましい復興から今や、世界経済の中でも一、二を争う水準まで達し経済的に豊かになっていった。その中で高学歴化が進み、せめて大学だけでも卒業しなければならぬ傾向に現在ではある。したがって受験戦争が展開され大学の大衆化によって、今では社会に出る為の準備期間になり、その結果、目的も持たず、個性のない集団が出来上がってしまったのである。

今の大学生について思うことは、本当の豊かさとは何かということである。経済的にというのも一理あるが、もっと心の豊かさということについて考えてもらいたい。その為にも大学の存在意義について再認識してもらいたい。

大学は専門の学問を探究する場であると同時に色々な事に挑戦できる場でもある。出来るだけ多くのことに手を広げ、自分に合ったものを選択し、より高度な人格形成を目指して心も十分に豊かにして頂きたいものである。

「祈・発展」福大書道部・連盟そして書道部

第三十七期福岡学生書道連盟

運営委員長 渡辺 耕平

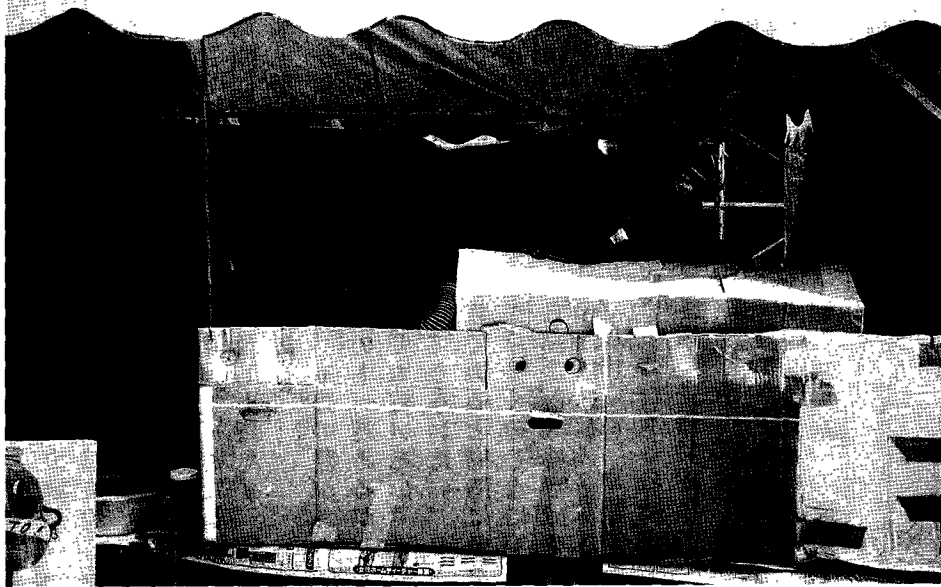
私が福岡大学書道部の皆様と交友をはじめ、はや四年の歳月が流れようとしています。貴大学には本当に多くのことを学ばせていただきましたがここでは、書道や部に関して最近思うことを書かせていただきます。

最近、活字離れとか、書道人口が減っているという声をよく聞きます。私も今思えば、花の大学生活のスタート切るときになぜ書道部に入ったのだろうと思うことがあります。普通、高校生が大学に対するイメージといえばテニスやスキーなどといったいわゆる「お遊び系サークル」ではないでしょうか。確かに自分の大学でも文科系の部が毎年のように二つ、三つと廃部に追い込まれています。

しかし、そういう時代であるからこそ今、書道部が見直される時なのではないでしょうか。みんながワープロやパソコンを使って肉質で書けなくなったとき、その時こそ書道をやっているということは大きな武器になります。みんなが「お遊び系サークル」やバイトばかりの学生生活を送るようになったとき、その時こそ書道部に入っていたことは大変誇りあることだと思えます。

今、生涯学習が叫ばれています。若い世代の書道離れは進んでいますが、逆にシルバー世代の人たちの書道人口は増加しています。市美術館や県美術館にはいつ行っても書道展が開かれています。福大書道部をはじめ連盟の人やそのOB・OGの方々の作品がいつもどこかの美術館で見ることができると。そんな時が来ることを願って止みません。

最後に「荒鷲」発刊にあたってこのような文章を載せていただくことに深く感謝すると共に福大書道部の益々の御発展をお祈りいたします。





部員寄稿

## 《憧れ》

憧れ

経済学部 二回生 大場 智子

「憧れ」という字は、童・わらべが持つてゐる心……ころと書きます。そこで私は幼いころの憧れを書きます。

私の小学校の低学年の頃、巨人の中畑選手に憧れていて、中畑は結婚しているのに、私は「中畑と結婚するんだとほざいていました。私の家族はみんな巨人ファンで、巨人が負けようものならみんなシラケて、冷たい目つきに家族中がなるくらいに家族なので、私も巨人の選手が大好きでした。その中でも、中畑選手の人格の良さそうなこと。幼い私には、二十才以上のおじ様でも、まるで少女マンガにでてくる目・歯キラリンとしたお兄様に見えた次第です。

今、私は缶ジュースは「カフェオ」か「ティオ」をよく飲むのですが、その頃の私は、今みなさんが想像しているとおり「オロナミンC」でした。そのキャップの裏についていた応募シールをおくり巨人グッズをねらっていました。しかし当たったためしがありません。

私はいつの頃からか中畑選手に冷めていました。現実にあるえない、と少しは大人になった……いえ、他に憧れの人があらわれたのです。

それは、元フジフィルムバレーボール選手の川合選手です。どんなにはげしく転んでもジャンプしても一糸乱れない、あの髪型。月刊バレーボールをそのころのおこずかいをはたいて買っていました。一冊の値段が500円くらいしていたと思えますが、川合選手見たさに、リボンやなかよしといった少女コミックをあきらめて甘木商店街の本屋で買っていました。

（♪集まるくんの求く人案内♪の商店街篇で女の人が立ち読みしているあの本屋です）

幼い頃の甘くてスツパイ思いをさせてくれた御二人は今、CM・ニュースと御活躍ですが、現役のとくと違うイメージ路線で、私の幼い頃の憧れつていつたい……。

御二人に幸あれと願います。

憧れ

人文学部 二回生 荻原 裕子

“ナシ”・“イカン” 皆さんはこれがなんなのかわかりますか？実はこれはインドネシア語でそれぞれ“魚”・“ケーク”という意味の言葉です。

福大には、現在多くの留学生がいますが、同様に他の国の大学の先生方も、福大の教授の研修生として来ています。そして、この言葉はインドネシアの大学の、日本語日本文学科の先生をしている方に「インドネシアではひとまず、これさえしやべれば生きていけるよ」と冗談っぽく教えてもらったものです。また、私の学科には、中国からと韓国から来ている留学生がいますが、彼女達は自分の国のことをいろいろ話してくれます。例えば韓国には“キム”という名字の人がかなり多くいるということや、また、韓国では名字で人を呼ぶのは失礼なことだから、ちゃんと名前と呼んだ方がいいんだ、というような事も教えてくれました。

このように、私は今、いろんな国の人たちと交流を持つことがとても楽しく、また、それぞれの国の話を聞くのが大変興味深いです。そして将来、私はこのようにいろんな国の人々と交流を持つことができるような仕事に就けたらいいな、

女コミックをあきらめて甘木商店街の本屋で買っていました。々と交流を持つことができるような仕事に就けたらいいな、

と思っています。

星に恋をした男のハナシ

商学部 四回生 松本 まり子

ある男が星に恋をして  
その想いは激しく星だけに向かった

人が星に焦がれても  
空しいと知りつつ  
自分の魂の全てを  
星にかたむけていた

ある夜海辺の絶壁で  
星を見つめていた男は  
星に向かつて

翔んだ：

ただ彼は  
その瞬間に

—— やっぱりだめだ ——

そう思ってしまった

彼の身は海に落ちて  
死んでしまった

最後の最後まで

彼が求める心の実現を  
かたく信じていたなら

きつと彼は 星と  
結びつくことができたはず

「憧れ」

商学部 三回生 平 由美子

—— 憧れって何だろう？ ——

憧れと聞いて先ず考えることが「夢や希望と似たもの」ということである。理想的な存在とする事柄に心が強く惹かれらるといふ点に共通点を見いだすことができる。しかし、これらは、実体を持たない。憧れや希望とするものに定義はなく、それらは一人ひとり異なるものであると思う。それらは、実際に自分の手に入ると、新たに別のものが生まれてくる。このことは、よりよく生きたいと願う気持ちから生まれ、生きる活力となっていくのではないかと思う。

改めて、自分にとっての憧れとは何か考えた。小さい頃は、将来の夢は何かを問うと大体は答えが返ってくる。しかし、私は小さな頃から、明確に言うことができなかった。確か保育園の頃は、夢というテーマで絵を描いたことがあるが、何を描いていいのかかわからず、友達がケーキやさんの絵を描いているのを見て、「ケーキと言えば、花だな」と連想し、花屋さんの絵を描いた。そして、小学校の時には卒業アルバム  
の将来の夢という欄に「ふつうの人」と書いた。このように

書いている人は他に誰もいなかった。今考えると「可愛くない子供だな」とつくづく思うが、子供ながらにして夢がなかった。しかしよくよく考えてみると、明確に将来こうなりたいたいという夢はなかったが、いつも「こうありたい」と思うものはあった。それが明確なものとなったのは、たった一つの言葉からだった。

中学三年の頃、私は塾に通っていたが、初めての受験を控え、様々なプレッシャーから自信を無くしてしまっていた。その時、ある先生から「そんなに不安なら、血尿が出る程勉強してみろ」（食事中の方、すみません）と言われ、その時には驚いたが、何故か急に気が楽になったことを覚えている。後々になって、「何もせず事に向かう前から不安がついていも仕方がない。自分ができる限りをすればいい」という意味がわかったが、正に「人事を尽くして天命を待つ」である。この時以来、何か逃げ出したいと思う度に、この先生の言葉が浮かぶ。この言葉のように生きることが私の憧れである。そして実際こんなふうに生きている人たちと幾度もであった。そういう人たちは、多分意識はしていない。でも目が違うのである。

年を重ねるごとに、現実的になり、子供のように自由に夢や憧れを抱くことは難しくなる。しかし、それは、夢や憧れが無くなるのではなく、様々な知識や経験を得て、自らが、自分の本当の夢や憧れを見つけ、それを実現させるために様々な選択をしているからだと思う。そして、私達は、そういう時期の真っ只中にいるような気がする。大学は様々なことを学ぶ要素を持っていると思うが、それをどれだけ吸収し、生かしていけるかは本人次第であると思う。そして、自己の責任において、選択をしていく根底には、夢や憧れがあるのだと思う。

皆さんの憧れって何ですか？

マニユアル化の世の中に革命を！

経済学部 四回生

緒方 勝則

今年、私は23歳になる。この歳になると少しは社会のことも見えてくる。しかし、社会全体、なんだかつまらなそうである。原因はだれでもできる、だれにでもわかる、マニユアル化された世の中だからではないだろうか。

現在在籍しているこの書道部もそのうちのひとつだと感じる。社会と部とを比べては変かも知れないが小さな社会と考えたならば毎年繰り返される行事・一般活動・先代のやり方と何の変化もない。

私もマニユアル化された部員の一人だと思う。時間や季節によつてする事が決められ、しかしそれがおかしいとか正しいとか考えず、ただただ安全にまた楽にそれをこなすことしか考えない。すべての部員とはいわれないが大部分が感受性が薄れていつているのではないだろうか。

昔の荒鷲、とくに部の創設期から昭和50年代の先輩方の文章を拝読すると、とてもいきいきとされ読むだけで活気が伝わってくる。現在の部活動や、今後の私の人生の上で必要となつてくるのは毎日がドラマティックな活気に満ち溢れた生活ではないだろうか。そうする為にも日頃から自分という人間を正しい道へと導くために自問自答し、強い意志を持ちながら進まなければいけないと考える。私はまだまだ未熟者である。これからも多くの経験を重ね、多くの難関にぶち当たりそして多くの喜びを知りたい。

最後の荒鷲を書くに当たり憧れというテーマを言われたとき何を書こうか迷ったが、先程書いた活気に満ち溢れた生活が私の憧れの生活であり今後の部に希望したい。そして憧れではなくなるよう努力していきたい。

現役又、何年後かこの文章を読む後輩達へ。

責任において、選択をしていく根底には、夢や憧れがあるのだと思う。

皆さんの憧れって何ですか？

「大きな失敗を恐れない者だけが大きな成功を得ることができる」  
未来の部員、そして未来の自分へ、ガンバレ！！



が私の憧れの生活であり今後の部に希望したい。そして憧れではなくなるよう努力していきたい。  
現役又、何年後かこの文章を読む後輩達へ。

## 《家族》

ぼっかぼかの家族

法学部 四回生 竹井 智子

結婚願望が強い人は言うまでもなく、そうでない人も「理想の家族像」を持っているのではないだろうか。そんな皆様に、最近わたしがハマっている漫画を紹介します。

「ぼっかぼか」という作品です。会社員の慶彦、専業主婦の麻美、そして4才位のあすか、の田所家が主人公。家のロインに追われ、麻美は朝寝坊、自作の歌をあすかと歌って踊り、よく昼寝するぐうたらな悪妻。でも、麻美が幸せで元気でいられる事が自分の幸せだから、と慶彦はそれを許している、そんな家族です。

この家族のいいなあとと思う点は、マイペースな点、そして「夫婦愛」と「親子愛」がある点。休日だから特別に、という事はせず、お弁当を作って近所の広場に行ったり、家族でスーパーに買い物に出掛け、慶彦が焼きそばを作ったり、とのんびりした日曜日。

夫婦は名前で呼び合って、二人の時はちよつと恋人気分。「飾らずゆつくり恋愛しよう」という約束通り暮らし、夫婦、親子それぞれが宝物、というところが何ともいいのです。

確かにこれは作り話です。でも、読んでいて「ぼっかぼか」な気持ちになれるので、好きです。結婚願望が強い人は勿論そうではない人も男女を問わず、一度読んでみて欲しいと思います。前者は、ますます願望が強くなるかもしれません。後者は、「こんな考え方もあるのか」とか、「こんな家族だ

「つたら結婚も悪くないな」と思えるかもしれないよ。反対に「こんな夢の様な家族なんて。理想と現実は違う！」と思ってしまうかもしれません……。

## 「家族」

法学部 三回生 荒木 綾子

大学生生活も早いもので四年目を迎えようとしている。これまでの三年間は私にとつてどうだったのだろうか、と考えるみると大きな影響を受けたように思う。

高校までは、朝、課外授業を受けるための早起き、夕は：まあそれなりに：自主的に勉強をして（いたつもり）、という日々の繰り返し。今思うと、本当に単調なときを過ごしたなと思う。部活にもめり込んでいたわけでもない。バイトをしていたわけでもない。お勉強大好き！なんてもつての外。行きたい学部のためにはやっていたが……。ただ、その日を何事もなく無事に、過ごしていた。全てが当たり前のように。なんとか大学に入ることができ、今度は一人暮らしが始まった。それまでは「あー早く一人で暮らしてみたい」など言っていたが、実際やると、自分がいかに周りの人たちに守られて、生活してきたのかが身にしみて分かった。そして、私は“自分の考え”“自分のポリシー”を持たずに今まで来ているんだ、と気づいた。

そのことに気づいたのは、部の先輩や同輩との交流を持ち始めて数ヶ月はかかった。それまでは周りに甘え、たわいなく話していたが、話しているうちに「こんなに深くまで考えていたのか。」“自分”をしっかりと持つてられる。」とその人の一面を知れたとき、驚きで自分と重ね合わせてみ

ずにはいられたなかった。

十代も終わりの範囲にいながらの発見。これはおそらく人よりも遅い発見だろうと思うが、私にとつては嬉しい発見である。でもそれも大学に入らないと、一人暮らししないと、そして部に入らないと気づけなかった。もし私が先に社会に出ていてはきつとこんな発見をしても感動する暇（いとま）はなかったかもしれない。

この発見をさせてくれた部の方々、そして両親に感謝します。周りの人たちとの繋がりがなかったら“自分”というものを改めて考えなかった。と言つて今、自分を把握できていくわけでもないがゆっくり焦らず、自分を知っていきたい。そしてこれから周りの人たちの大切さ、ありがたさを胸にして“繋がり”を大事にしていければと思う。

## 家族

商学部 四回生 濱地 宣充

家族は私にとつてどのようなものかを考えると、それは原点だと思えます。それは常に私の基盤にあり、愛情や常識、考えなど多くのことを教えてくれました。時にははげまされ、時には思いっきりしかられ、互いのことを思いやり、懐ふかく私のことを見守ってくれてきたと今になって感謝しています。この家族という原点があったからこそ、今までスポーツや勉強、書道や遊びに精一杯取り組めたと思います。

又、時折々の原点を思い返すと高校時代では水球であり、大学時代では書道部であったと思えます。書道部は今の私の大きな基盤にあり、私を大きく変えてくれました。

とその人の一面を知れたとき、驚きで自分と重ね合わせてみ

とまた違ったものを感じている。  
今、私は朝早くに家を出て夜遅くに帰っている。つまり家は食事と睡眠の場所ではない。しかし両親は何も言わない。以前は、「少しは勉強しなさい」と口うるさく言っていた。心配していないわけではないが、やりたいことをやらせてやるうとしている様に思える。私も何も言わないが、いつもそれに感謝している。

私だけではありません。私の同輩で言えば青木さん、彼は懐が深くなり、パソコンが好きになりました。次に勝則、彼は自分の世界を持つNICEな奴になった。次に横山、彼女は周りを和ませ、真つ当なことを言うようになった。松本は書道部を愛する女になった。西江プロ、彼は4年になって総会が好きになった。竹井は大人の女？になり、マツサージはプロ級である。

この様に人それぞれの、様々な成長は書道部という原点において、「一所懸命」に取り組んだ成果だと思っています。そして、そんな原点である書道部は私の家族だと思っています。最後に、四年目の荒鷲を書くにあたり、右にある同輩たちに口では言いづらい感謝の気持ちを伝えます。ありがとう。

### 家族って何だろう

法学部 三回生 中島 沙織

家族とは何なのか改めて考えるとなかなか難しいものだと思います。それはきつと、あまりに身近すぎるせいであると思う。しかし最近家族とのつながりとは何なのか、何となく分かる。

幼い頃よく兄と喧嘩して泣かされた。悔しくて「兄ちゃんなんかいなくなってしまう方がいい」と思った。しかし今、兄は就職して家を出ていて年に二・三度しか帰ってこない。喧嘩どころか話すことすら殆ど無くなってしまった。今では喧嘩していて頃を懐かしく思う。

思うに家族とは、離れて暮らすようになってその存在に気づかされるものである。また、最近両親に対して高校まで



## 《出発》 たびだち

「出発」でいつも思うこと

経済学部 四回生 青木 孝弘

出発を「シユツパツ」と読むのと「タビダチ」と読むのでは、とらえ方に大きな違いがあるなと思う。まず、前者「シユツパツ」だが、とても明るく、今から起こることに向かってしっかりと見つめて元気な足どりで出掛けていく様な姿を僕には想像させる。

後者では、というと、今迄お世話になった古巣から「本当に育ててくれて有難とう」ということでも考えながらこの先の事に取り組んでいこうというように感じる。(あまり違いがよくわからなそうなのでもう一度)つまり、これから「出発」するときに、「シユツパツ」には、ベクトルが前の方だけを向いていて、「タビダチ」は、原点から前後の両方に向いていると感じるのだ。

勿論、先述の二つは、TPOによって使い分けられるが、僕も遂にタビダチの方を使うようになった。何だか、このタビダチという言葉にはとても温かいものを感じる。特に書道部に入って様々な人達の出入りをみてきた。卒業された先輩方、今でも本当に可愛がってもらっているし、卒業された今でも心は書道部にしっかりと残っていられるんだなあと思うものだ。

書道部(他サークルもそうだろうが)はとても人の繋がりをとても大切にしているんだと思う。僕がこれまでいる間、たった四年間ぐらいで先輩が卒業したり、新入生が入部したり

で、それも毎年のことだから、知っている人が雪ダルマ式に増えていった。ただ知っているだけでなく、それぞれの人のベクトルが書道部を向いている人が集まっているんだ。いつもこういう部をみるといいなあと思うし、自分がその中に居れるというのは、これまた良かったと思う。こんな書道部をもう「タビダツテ」しまうことになるけれど。単に卒業でなく心のベクトルを書道部に向けていきたいし、これから部を支えていく皆も、同じ方向に心のベクトルを向けていってほしいものです。

## 「出発」

工学部 二回生 山根 芳子

今年も荒鷲を書く時期がやってきました。べ切日の一ヶ月程前に原稿を頂きました。しかし書き始めるのはべ切日が迫ってからです。日頃きちんとした文章を書かない私にとっての荒鷲の原稿書きというものは、とても大変な作業を意味しています。

今年のタイトルは出発。出発(しゅつぱつ)と書いて出発(たびだち)と読みます。「ああ、なんて難しいタイトルなんだろう。」そう思った私は図書館で本を探しました。そこで問題です。私は何に関する本を探したのでしょうか。これを当てた人は「モグ」の思考回路と同じです。おそらく気が合うことでしょう。当たらなかった人は「モグ」の思考回路と違うということです。よかった(？)ですね。答えを知りたい方は続きを読んで下さい。

一九三一年、ウィーンの出來事である。この年の九月は



冷たい雨が降り続いていた。九月はツバメたちがウィーンのもっと北の方からやってきて南の暖かい方へ旅立って行く頃である。そこまで元気に飛んできた彼らは、ずぶぬれになり弱りはててウィーンの郊外で群れをなして落下した。ウィーンの動物保護協会はいいた家を一軒もついていたので、ツバメのために家を改造した。部屋は急いで暖められ、たくさんの針金が張りまわされ、彼らのとまるところが作られた。ツバメを長くとどめておく事はできず、早く南の暖かいところに運ぶために飛行機や汽車が使われた。(助けられたツバメは全部で十万羽以上)」

以上が本で調べたことです。問題の答えはお分かりいただけましたか？正解は「渡り鳥」「鳥のはなし」といった鳥に關する本です。“どうして？”と思われ方がいらつしやるかもしれない。その理由は「出発(たびだち)」。「渡り鳥の旅立ち」としか「モグ」の思考回路は作動しなかつたからです。これが「モグワールド」なのです。「モグワールド」が明らかになったところでこの文章を終わらせて頂きます。

## 出発

法学部 一回生 梶山 敦子

誰でもだと思うけど、高校までは家族といつしよに暮らしていて、家族が何かと気づかってくれました。でも、大学に入って自分の事は自分でしなくてはならなくなつてしまいました。

私は、現在、寮に入っています。だから、朝食と夕食はおばちゃんを作ってくれます。それで、私は作らなくていいの

で、すごく楽です。そして、おばちゃんは料理が上手で、明るい人です。でも、早くお風呂に入らないと怒られます。寮は、先輩に気を使うけど、やっぱり楽しいです。

ところで、私が大学に入って一番変わったことと言えば起床時間です。家に居る時は大きな音の目覚ましをかけても

「音が小さすぎて聞こえん。」とか言つて、ギリギリまで起きなかつたです。そして、高校の友達と「誰も起こしてくれんかつたら、まじでいつまでも寝とるよねー。」と言つていたのが、ここに来てからは、早寝早起きにすっかり変わつてしまいました。そして、現在、私は目覚ましなしで起きる事ができます。

## 出発 ーたびだちー

経済学部 三回生 進藤 久美子

あと数ヶ月もすれば、私もとうとう4年になる。なんといことだろう。こんな調子じゃ、あつという間に卒業の日を迎えそう。

私にとつての大学時代つて、何だったのだろうか。夢中で駆けぬけた青春時代：いや違う。ゆっくり、じっくり自分自身を見据えた時期。それとも……。いろんなことを考えてみる。

私は、4年前の今頃、自分なりに進みたい道を決め、それなりに受験勉強を頑張つていた。あの頃は、ゆっくり物事を考えている暇もないくらい、夢中で走つていたように思う。

それから月日は流れて、私も随分、当初の予定とは違う生活を送り、今に至っている。自分にとつては、小さな挫折もあ

った。思い通りに行かず、自分自身に、はがゆい思いをしたことは数知れない。人から見てどうかは分からないが、決して私は、“真つすぐ”な道を、真つすぐ進んできたとは、思っていない。私はその中で、本当にいろんなことを考えた。いろんな思いもしてきた。壁にぶち当たったこともあった。そんな時、いつも頭に浮かんだ言葉は、“紆余曲折”——決してプラスイメージの言葉ではないが、私はこの言葉に勇気づけられたり、元気づけられたりしてきた。

私にとつての大学時代、それは、この紆余曲折の真つ只中なのかも知れない。自分の夢を叶えるため、そして、なりたいたい自分になるための、長い助走。高校の頃のように、夢中で駆けぬけていた時には見えなかった大事なことの数々も、今は少しわかる気がする。

私が私として社会へ出発（たびだ）つていくために、あるべくしてあった大学時代なのかもしれない。4年前と変わらなかつたただ突つ走つていただけだったら、私は“成長”していなかつたかもしれないのだから。

少し、くさいことを書きすぎたような気もするが（苦笑）これが、今の私の気持ちである。大学3年のある冬の日、自分がこんな風に思っていた、ということ、このページに残しておきたいと思う。

出発

商学部 四回生 横山 有美子

君のゆく道は  
はてしなく遠い  
なのに なぜ  
歯をくいしばり  
君はゆくのか  
そんなにしてまで

空にまた  
陽がのぼる時  
若者はまた  
歩きはじめる

夢や希望がある限り  
人は頑張れるのだと思う。  
道に迷つても  
つまずいて転んでも  
自分の信じた道を  
頑張つて歩こうと思う。

## 《自由投稿》

歴史学科生になつて

人文学科 2 回生 佐田 美穂

私は、昨年の四月に夢かなつて、歴史学科に入学した。歴史が勉強できさえすれば良かったので、福岡大学に入学するとは、自分でも思つていなかった。だから、現在私が福大書道部の一員であることに偶然を感じる。

一年生の必修授業に、「史学概論」というのがる。初めての授業で「歴史学とは」ということで先生の話があつたが、自分の考えが甘かつたことを非難されているような気がした。歴史というものを甘く見すぎていた。しかも「歴史学科生の四年間は、卒業論文を書くための四年間である。」と、入学して初めての授業で言われてしまった。入学したばかりでもう卒論の心配をしなきゃならないなんて、と暗い気持ちになつてしまった。もう一つの必修授業の「日本史概説」では、先生に「歴史を学ぶものは、開発という名の環境破壊と戦わなければならぬ。」と言われた。

一年生の初めから、色々なことを言われて、本当に卒業できるのかと、すごく不安になつたが、歴史の勉強は楽しい。歴史学科に入学して良かったと思つている。フランス語・ドイツ語・英語を自由自在に操る先生の授業に苦労しながらも、気分屋な所があるけれど、学生が大好きで、歴史の視点・とらえ方について語る先生に飲まされながらも、歴史学科生で良かったと思う。書道部には、他に歴史学科の人がいなくて淋しい思いもするけれど。

私の友達は、今、重要文書の解説をしている。まだ専門家が誰一人として解説していない文書である。ワクワクする。私も少しだが手伝わせてもらつてゐる。私も、友達に負けぬような研究がしたい。そして、書道部と両立できたら、と思つてゐる。

最近思うこと

法学部 一回生 東島 道子

大学に入学して早くも一年が過ぎようとしてゐるこの頃、よく考えることがあります。それは、自分は将来どんな仕事に向いてるかなということなんです。工事現場などの肉体労働はどうしても無理です。やっぱり事務職系の職業がいいなと思ひます。

この前就職説明会の話でどこか人と違う”これだけは人には負けない“という特技を持つていたほうがいいということを知りました。

それで私は書道部で自分の腕に磨きをかけて先輩方みたいになうまくなりたいと思ひます。書道部に入学して練習にはできるだけ参加していこうと思ひます。

蛇足

法学部 2 回生 石橋 幸恵

自由投稿（いや、別に好んで書いてはいないが）というこ

とで好き勝手どうでもいいことを書く。無駄に時間を使いたくない人は、ここで読むのをやめ、次に行くことが賢明である、ということをお言しておく。

だらだらと思いついたことを書かせて戴こう。

まず、良い古本屋の条件。古本屋なんざ余りなじみのある人は少なかつたりするだろうが、まあいいや。一つ；豊富な種類。当然の条件だろう。二つ；値段と本の価値が釣り合っているか。これは重要だ。古本は定価の半額が常識；というのは甘い。例えば漫画に關しても、今人気のあるものだったなら、半額以上でも売れるのである。逆にそうでなかったなら、半額でも売れない。多少値の張る本（例：ハードカバー）であつても、あまり人気のない物なら、定価の1/10以下の値段まで下げるのが賢い古本屋だ。最近はずチェーン店などで値付けの基準が決まっている古本屋もあるが、やはり個人経営で個性のある値付けがされている店が好感が持てる。店主の本に対する知識なんかが見え隠れする。しかしチェーン店の経営規模が大きい店のほうが、明るい雰囲気、本の種類が多いのも現実だ。三つに、本の品質管理がなされているものがある。古本独特の匂いがあるが、あれは薬品で本を磨いているからだろう。匂いはあまり頂けないが、まあ、品質管理の為仕方ないだろう。

それにしても本はいい。私は、はつきり言つて書物ほど日常生活に必要な物はないと思つている。家中の本（電話帳は除く）が無くなつても生活していけるし。だからこそ私は本が好きなんだ。読むだけじゃなくて眺めたり触つたりしているだけでも楽しい。本って結局人間の頭の中を字にしたものじゃないか（しつこいよーだが電話帳の類は除く）。

最近はずTVが原因で活字離れしている人が多いと言ふけどTVと本に似て、まったく非なる物だね。やつてゐることは同

じだけど、与える影響・人の受け取り方が違うんじゃないかな？どっちが良いかなんて比べられる次元のものじゃないね、この二つは（いや、でも私は本、即答するけどさ）。

まあ、私が本のことを語るのに原稿用紙二枚じゃ無理だということとは分かつたよ。ちなみにこれについて「いや、私はそうは思わない。」という方。別にそれでいいと思うよ。あくまで私の意見だし、題名にも書いてあるやん。「蛇足」だつて。注意書きにも書いたし。それでも私と本について議論したい方、受けて立ちます。楽しみに待つてますよ。

◀一年間を振り返って▶

私達第三十七代役員は、テーマ「絆」のもと、一年間部の運営を行なってまいりました。このテーマは、部員の書道を通じての親睦を深め、それをもとに部の活性化、書技の向上を図るものでした。

このことを達成するために週に三回（月・水・金）の練習、又、行事を行いました。

私達役員は、人数は四人ではありませんでしたが、各人が異なった性格、能力をもとに、部の運営や部員との交流に活かせ、そのことが、この一年間全てのことに刺激を与えたと考えています。

最大行事である、第三十七回西日本高等学校揮毫大会においては、少数の部員ではありましたが、部員一人一人の目的意識があったからこそ、盛会の内に終えることができたと思います。

最後に、この一年間御支援、御指導並びに御鞭撻をいただきましたOB書心会の先輩方、また、今年から講師として指導していただいている大原先生にはこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。

これからは、新役員のもと、新たな部が築かれていきますが、私達はこの一年間の経験を後輩に伝え、部に貢献していければと考えております。

本当に一年間ありがとうございました。

第三十七代役員一同



年間行事

○クリスマスパーティ

通称クリバ。今年は場所を変えて、6月にできたばかりの福岡大学60周年記念会館・ヘリオスホールで行なった。おいしい料理にシャンパンつき。このシャンパンはおいしかったからなのか、それともお酒の代わりか人気があり、追加を頼む人もいた（残念なことに、実際はできませんでしたが）。

クリバといえば、普段できない（ことはないけど）、お洒落。この日もみなさん着飾ってきてもらいました。ドレッシーなものから柔道着、射撃犯（?）、ちよつとお姉さん風（?ごめんなさい）までいろいろでした。年に一度はこういうものもいいもんだ、とちよつと感慨深くなってしまう一時でした。

○追い出しコンパ

まだ吐く息も（確か）白かった二月のある日曜日、バスケットコートで追い出しコンパが開始された。

これまではあまり見られなかった先輩方のあんなプレーや、こんなプレー（あまりにも好プレーが多すぎて書ききれません）。中には、バスケットボール、サッカー、尻相撲（?）など全ての種目にフル出場の先輩。お疲れ様でした。

そして、夜の部。現役部員、そして多くのOB・OGの先輩方に囲まれた先輩方。まるで一年生に戻ったような笑顔。でも最後の一言を部員に頂いているとき、声を詰まらせる方もいらしたが、それほどこの部に対しての想いが大きかったのかと思うと、書道部のすごさを改めて感じずにはいられなかった。

これからは又、一からのスタートとなるわけだが先輩方に負けたくないようなより良い部をみんなで作っていかなければ、と改めて感じた一日だった。



○春季合宿

四回生が卒業され、新体制で臨む初めての行事である。「温故知新」をテーマとし、これからの様にして活動に参加していくか、行事は、そして自分はこれからどうしていきたいのか、などを班ごとで話し合った。

なかなか自分の意見を言い出せず、行き詰まってしまうところもあったが、その様なとき、では上級生はどうあるべきか、これからの部とはどうあるべきかを考えずにはいられない。

最終日、部員から自分のことを振り返ることが出来た、見つけ直すことができた、という言葉を聞いた。

この合宿で話したことをこっぴどだけで終わらせずに今後活かして行ってほしい。

○新人生歓迎会

一回生 東島 道子

朝から結構天気が良い中で、松原運動公園でありました。私はスポーツは本当に久しぶりだったのでちょっと心配でしたが、すごく楽しかったです。

中でも印象に残っているのが、班で前に出て、班員が平さんから出された部員の名前を見て、ヒントをいい、その班の一年生がその人を当てると言うものです。私の時は、「優しくそうで優しくない」というヒントがありました。最後に、これはちよつとわかりませんでした。

最後に、結果発表で田中君とMVPをもらいました。ただ動き回っていただけなので、嬉しかったです。その時頂いた商品は、名前はちよつとわかりませんが、カラフルでバネみたいに伸びたり縮んだりするもので、梶山さんと階段で転がして遊びました。(今は部屋の飾りにしてます。)

夜は、高砂で部の人たちとお鍋を一緒に食べました。肉団子がおいしかったです。あと、たれもおいですね。おいしいところでした。

楽しい一日でした。これからお願いします。そして来年も今年みたいに楽しいと思います。



○夏季合宿

今年には玄海の家で研修室を貸し切って行なった。テーマは「自強不息(自分からすすんで常に努力をすること)」。

この合宿は、七隈祭へ向けての書き込みということもあり、昨年より少し練習時間が延びた。また、大原先生も一泊二日で指導にあたって下さった。(この中では筆の持ち方などを中心に講習もしてくださった。)

班ごとによる書体別練習、批評会、先生からの指導、個人の書技への取り組み、スピーディーな行動。ここまですべて集中して一つのことに取り組めるのも合宿ならではの。

ここまでできるためには、個人の意識、そしてその個人を引っ張ってってくれる班長たちの努力無くしては語れないだろう。

これから先、形が変わることがあっても夏季合宿の意義を考えていていただきたいものである。





○第三十七回西日本高等学校揮毫大会

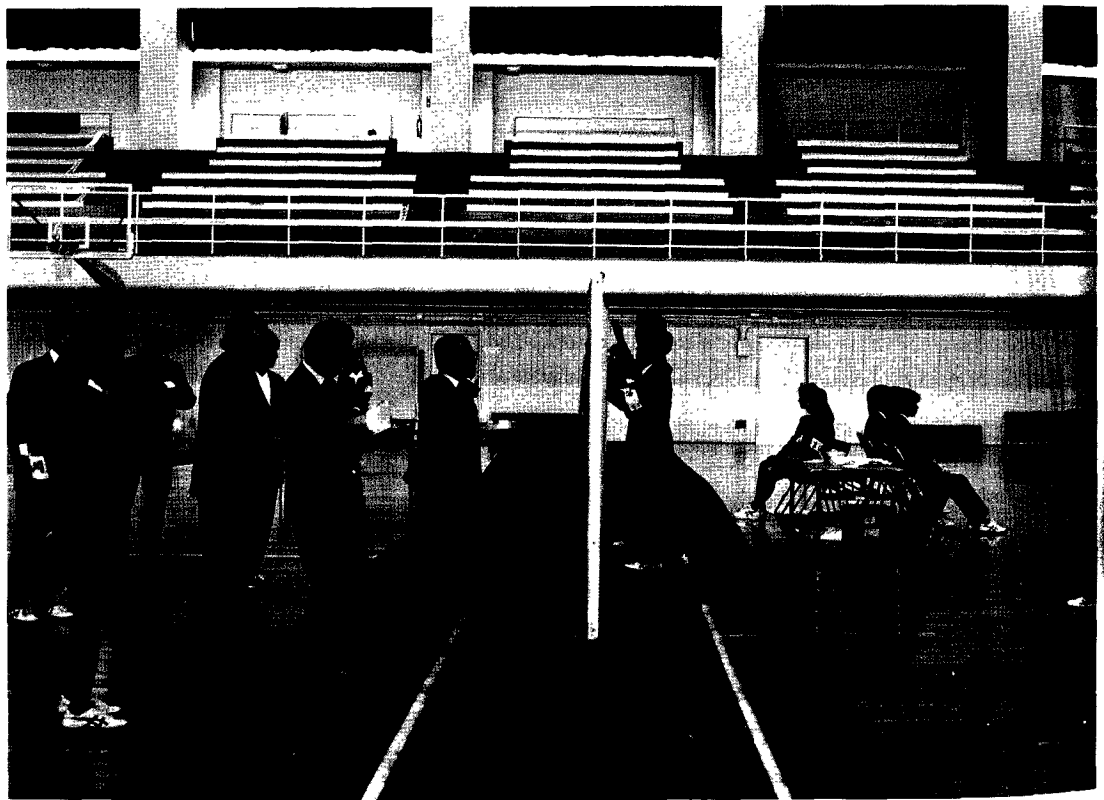
三回生 中島 沙織

大会前日の夜、第一記念会堂のフロアーに作られた揮毫枠を見ながら、「これが自分達が作り上げて来たものなんだ。」と感慨深いものがあつた。

大会当日、会場は高校生で一杯になった。参加校二十七校、参加者一八四名。会場に入ると、参加者からの熱気が押し寄せてきそうだった。静寂の中から漂ってくる緊張感に圧倒されそうになった。高校生一人ひとりの真剣な顔と意気込みがひしひしと伝わってきて、何だか「頑張れ」と励ましたくなってくる。一文字一文字、全身全霊をかたむけて紙と向き合う高校生の姿には、毎日この日のために練習している姿が浮かぶようだった。

「参加して良かった」という声を今年もたくさん聞くことができた。それは部員全員で力を合わせて大会に臨んだ成果である。最大行事として素晴らしい大会を作れたことを部員は誇りに思つてほしい。

私は高校時代、揮毫大会に参加したが今回涉外として大会を無事終了することができたことを嬉しく思う。これも部員皆のおかげであると思う。ありがとう。そして、大会に当たり多大なる御尽力を賜りましたOBの方々、本当にありがとうございました。



◀一年間を振り返って▶

私達第三十七代役員は、テーマ「絆」のもと、一年間部の運営を行なってまいりました。このテーマは、部員の書道を通じての親睦を深め、それをもとに部の活性化、書技の向上を図るものでした。

このことを達成するために週に三回（月・水・金）の練習又、行事を行いました。

私達役員は、人数は四人ではありませんでしたが、各人が異なった性格、能力をもとに、部の運営や部員との交流に活かせ、そのことが、この一年間全てのことの刺激を与えたと考えています。

最大行事である、第三十七回西日本高等学校揮毫大会においては、少数の部員ではありましたが、部員一人一人の目的意識があつたからこそ、盛会の内に終えることができたと思えます。

最後に、この一年間御支援、御指導並びに御鞭撻をいただきましたOB書心会の先輩方、また、今年から講師として指導していただいている大原先生にはこの場を借りまして厚く御礼申し上げます。

これからは、新役員のもと、新たな部が築かれていきますが、私達はこの一年間の経験を先輩に伝え、部に貢献していければと考えております。

本当に一年間ありがとうございました。

第三十七代役員一同

規約

福岡大学学術文化部会書道部

第四章 部員総会

第一章 名称及び目的

- 第一条 本部は福岡大学学術文化部会書道部と称し、本学学生による書道愛好者の団体である。
- 第二条 本部は部員相互の親睦融和を図り、人間形成をめざすと共に書道文化の普及、書技の向上を目的とする。
- 第三条 本部は前条目的を達成するために次の事業を行う。
  - 一、書道に関する事業
  - 二、書道に関する調査並びに機関誌などの刊行
  - 三、関係団体との親睦並びに連絡提携
  - 四、各種展示会出品
  - 五、その他前条目的達成のため必要と認められた事業

第二章 組織

- 第四条 本部は講師及び部長を各一名置く。
- 第五条 本部は幹事、副幹事、会計、企画、庶務、渉外、その他必要とする役職を置き、本部を代表する。
- 第六条 本部は次の機関を置く。
  - 一、役員会
  - 二、部員総会
  - 三、OB会、但しOB会規約は別に定める。

第三章 役員会

- 第七条 役員会とは、部の円滑なる運営を期するための機関である。
- 第八条 本会は原則として、第五条に基づき役員によって構成される。但し、第五条に基づき役員以外であっても幹事が認めた場合には、本会に出席することか出来るか議決権はないものとする。
- 第九条 本会は幹事によって召集され代表される。
- 第十条 本会は毎月一回開くことを原則とする。
- 第十一条 本会の議決は部員総会の決定を妨げるものではない。

- 第十二条 本会は本部の最高議決機関である。
- 第十三条 本会は本部の部員によりこれを構成する。
- 第十四条 本会は必要に応じこれを開き、幹事がこれを兼務する。
- 第十五条 本会の議長は原則として、幹事がこれを兼任する。
- 第十六条
  - 一、本会は部員の過半数をもって成立する。
  - 二、本会の議決は出席者の過半数の賛成を必要とし、可否同数の場合、幹事がこれを決定する。但し、出席者の過半数の賛成で重要事項とし、その決定には出席者の三部の二以上の賛成を必要とする。

- 第十七条 本会不成立の際、出席者の三分の二以上の賛成をもって仮議決することが出来る。但し、

- 一、仮議決については事後部員総会において過半数の承認を必要とする。
- 二、重要事項は仮議決することが出来ない。

第五章 役員

- 第十八条 役員構成は第五条に同じ。
- 第十九条 第三条に基づき、外部関係諸団体へ役員を派遣することが出来る。
- 第二十条 幹事は本部を代表し、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその職務を代行する。
- 第二十一条 本部の役員改選は選挙制にし、これを重要事項と認め部員の無記名投票による選挙を行う。但し、委任状は認めるが、委任の方法は年度によって異なっても良いものとする。
- 第二十二条 本部の役員任期は四月一日より翌年三月三十一日までとする。但し役員改選後、翌年三月三十一日まででは代行期間とし、その責任は新旧両役員の間で連帯責任とする。尚、欠員が生じた場合これを補充する。
- 第二十三条 役員改選は原則として十月に行う。

第六章 役員職務

- 第二十四条 役員職務は次の通りである。
  - 一、幹事は部務を処理し、部を統括する。又、部の代表責任者であり、その責任を学術文化部会と

部全体に負う。

一、副幹事は幹事を補佐し、幹事に支障ある時はその任務を代行する。又、福岡大学書道部OB会の事務を担当する。

一、会計は部費徴収並びに部費予算に関する收支の記録決算書を作成。

一、企画は第一章第二条に定められた本部の目的にそって諸活動を企画する。

一、庶務は本部の活動に必要な諸事務を行い、資料の収集保管をなし、機関誌の発行を行う。但し機関誌の発行は年一回とする。

一、第五条第十九条に基づく役員は、本部関係諸団体との親睦融和を図り部の向上を目指す。

## 第七章 会 計

第二十五条 本部の会計年度は四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第二十六条 本部の部費その他の所定納入金については、前年度末に部会において決定しなければならない。

第二十七条 会計報告は会計が行う。又、部員の要求に応じて会計簿を公開し、年一回決算報告書を作成し、これを報告する。

## 第八章 部員の権利義務

第二十八条 本部の部員は次の権利を有する。

一、本部のあらゆる活動に参加し、人間形成の場として利用すること。

一、本部の部員総会に出席し、その議決に参加すること。

一、本部における選挙権、被選挙権を有する。

一、本部の備品及び図書を利用すること。

第二十九条

一、部員は部員総会に出席すること。

但し、やむなく欠席する者は事前に欠席届を幹事に提出しなければならない。

一、部員は部費その他の所定納入金を定期に納入すること。

一、本部の規約に従うこと。

## 第九章 入部、退部

第三十条 本部の入部は年度始め募集することを原則とし、学文会登録及び入部金の納入をもって部員とする。

第三十一条 部の退部は書面をもって幹事に願い出て、役員会の承認を得、部員に通達する。但し退部を希望する者は、その在籍期間までの所定納入金を完納すること。

## 第十章 罰 則

第三十二条 書道を研究する熱意なく本部の名譽を汚したる者

部活動を理由なくして一ヶ月以上怠った者、又、部の秩序を乱す者は部より除名する。但し、欠席届提出者についてはこの限りではない。

## 第十一章 規約改正

第三十三条 本部規約改正の発議は部員総会において部員の四

部の一以上の同意により総会の議決を経て行われる。尚、改正においては、本部員の三分の二以上の出席を必要としその出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

## 第十二章 附 則

附 一、本規約は昭和三十五年より実施、昭和四十五年四月一日改正。

福岡大学書道部書心会  
(規約)

第一章 総 則

- 第一条 本会は福岡大学書道部書心会と称する。  
第二条 本会は事務局(本部)を福岡大学書道部に置く。  
第三条 本会は支部を置くことができる。

第二章 目的及び事業

- 第四条 本会は会員相互の親睦を図り、書道文化の普及、向上に努めると共に福岡大学書道部の後援を行い、もって書道に貢献することを目的とする。  
第五条 本会は前条目的達成の為次の事業を行う。  
一、書道の振興に関する事業  
一、書道に関する研究物、機関誌等の刊行  
一、関係諸団体との親睦及び連絡提携  
一、各種展示会出品  
一、その他前条目的達成の為必要と認めたる事業

第三章 組 織

- 第六条 本会正会員は福岡大学書道部員として登録をなし卒業した者をもって構成する。但し強制する者ではない。  
第七条 本会に、総会、評議委員会、及び事務局を置く。

第四章 役 員

- 第八条 本会は次の各号の役員を置く。  
一、会長(一名)  
一、副会長(若干名)  
一、評議委員長(一名)  
一、副評議委員長(三名)  
一、評議委員(原則として各代一名とする)  
一、事務局次長(一名)  
一、事務局委員(若干名)  
一、会計監査委員(二名)

第五章 役員職務

- 第九条 本会は次の職務を行う。  
一、会長は本会を統括し、且つこれを代表する。  
一、副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。  
一、評議委員長は、評議委員会を統括し、且つこれを代表する。  
一、副評議委員長は評議委員長を補佐し、評議委員長に事故ある時は、その職務を代行する。  
一、評議委員は本会の運営、重要事項の審議及びその決議にあたる。  
一、事務局次長は、事務局を統括し、且つこれを代表する。  
一、事務局次長は、事務局次長を補佐し、事務局次長に事故ある時は、その職務を代行する。  
一、事務局委員は、本会の企画、立案にあたる。  
一、会計監査委員は、本会の会計監査にあたる。  
第十条 役員任期は二年間とし、定例総会に於いて選挙するものとする。

第六章 総 会

- 第十一条 総会は本会の最高議決機関である。  
第十二条 書心会総会は会員をもって構成する。  
第十三条 本会総会は次の各号の場合、書心会会長がこれを召集する。  
一、定例総会(年一回)  
一、会長が特に必要と認めたる場合  
一、評議委員会が必要と認めたる場合  
第十四条 本会総会は出席会員をもって成立する。  
第十五条 本会決議は出席会員の過半数を必要とし、同数の場合は議長がこれを決定する。  
第十六条 本会総会議長は書心会会長がこれにあたる。

第七章 評議委員会

- 第十七条 本会の審議及び決議機関として本委員会を置く。  
第十八条 評議委員会は評議委員、事務局次長及び事務局次長をもって構成する。  
第十九条 評議委員会は次の各号の場合、評議委員長がこれを召集する。  
一、会長が必要と認めたる場合

一、評議委員長が必要と認めた場合

## 第十一章 附 則

第二十条 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第三十四条 本規約は、昭和五十九年一月十六日から施行する。  
昭和六十一年一月一日

## 第八章 事務局、会計

第二十一条 評議委員長は評議委員長がこれにあたる。

第二十二條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第二十三條 評議委員長は評議委員長がこれにあたる。

第二十四條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第二十五條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

## 第九章 入会及び退会

第二十六條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第二十七條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第二十八條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第二十九條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第三十條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第三十一條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

第三十二條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

## 第十章 規約改正

第三十三條 評議委員会の成立、並びに議決は書心会総会に準ずる。

本会規約の改正は評議委員会の審議を経て総会出席者の三分の二以上の賛成を得なければならない。

SINCE 1501・室町文亀元年創業



平助筆 復古堂

〒810 福岡市中央区春吉3-3-9 TEL 092-761-5122(代) FAX 092-761-8367

福大前

メインショップ

オール 500円

“当店おすすめ” たべてんじや!!

鉄火丼・ゆくら丼・ゆくら鉄火丼

門松本家 ザ・どんぶり屋

福大前 ☎864・5553 香椎店 ☎682・1695

七隈ファミリープラザ

城南区七隈8丁目4番8号(福大横) ☎861-5555

年中無休



☎863-4952



P250台



☎861-5555

☎864-1161

☎861-1005

☎863-5560

# 焼肉 大ちゃん

食べ放題

|        |             |
|--------|-------------|
| 和牛     | 1800円を1200円 |
| 和牛&カルビ | 2000円を1500円 |
| カルビ    | 2100円を1800円 |
| パートⅡ   | 2300円を2000円 |



城南区七隈8-1-28  
☎863-1429

## 書道用品卸小売

筆墨硯紙全般

# 株式会社 尚文堂

〒810 福岡市中央区大名2丁目1-52  
電話 (092) 741-6293  
FAX (092) 741-6299

不動産のトータルプランナー

# 大地不動産(株)

〒814-0142 福岡市城南区片江5丁目10-14・TEL(092)863-0514

大小宴会、コンパ、ご商談等に  
お気軽にご利用下さい。



〒810 福岡市中央区高砂1丁目4-14 TEL(531)3500・0140



ぼけ八 本店

福岡市城南区友丘2丁目2-2

☎092-801-7763

Party 60名までOK

串揚げ処

ぼけ八



福岡市城南区1丁目35-21

ハビネスM1階

☎092-845-3028



福岡市城南区片江5丁目1-37

中山不動産

TEL (092) 864-7310

FAX (092) 864-7622

書道用具専門店

雲峯堂

〒810 福岡市中央区天神1丁目1-1

アクロス福岡B1

電話 (092) 725-1101(代)

FAX (092) 725-6924

# やきとり

# 鍋物

やきとり串40数種類 オール60円  
大小宴会予約承ります

## 破天荒

☎863-8319

南片江2丁目(南片江バス停そば)

## 破天荒Ⅱ

(旧わいがや)

☎861-3042

BANKŌ-DO

美術表装・ギャラリー

# 晚香堂

〒810 福岡市中央区大濠1丁目3-5(福岡気象台ヨコ)  
☎(092)741-0897 [P]アリ

am10:00~pm6:30

●晚香堂は100年以上の伝統をもつ美術表装の専門店です。  
●お気に入りの書画に合う装いをご自分の目で選んでいただけます。

レストラン

# トレビス

福岡市城南区片江4-8-13

TEL 092-863-6653

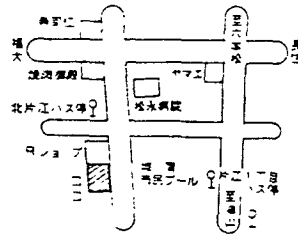
国家検定フラワー装飾1級技師の店

- 🌸 花束
- 🌸 アレンジメント
- 🌸 ブーケ・コサージュ
- 🌸 慶弔用スタンド装花等
- 🌸 会場装花



優しさを届けますお気軽にお電話ください

片江1丁目7-4 (城南市民プール裏)



編集後記

第三十八号荒鷺をやつと発行することが  
できましたできました。部員寄稿におい  
ては、我々第三十七代のテーマであります、  
「絆」から考えた3つの言葉と自由投稿を  
私なりに設けてみました。

一つの単語から、様々な連想がなされて  
います。「あの人はこんな考えも持つてい  
るのか」という感想を持つことができるか  
もしれませんね。

ところで、一九九七年は、世界でも日本  
でも、そして部でも本場に様々な出来事が  
ありました。そんな激動(?)の年があつ  
たことを、この三十八号荒鷺を見ることに  
よつて思いだし、又、卒業後に当時を懐か  
しみながら読んで頂ければ幸いに思います。  
最後に、第三十八号「荒鷺」を発刊する  
にあたり、御協力を賜りました関係者各位  
の方々に部員一同感謝申し上げますと共に、  
心より厚く御礼申し上げます。

第三十七代庶務

荒木 綾子

第三十八号「荒鷺」

福岡大学学術文化部会書道部機関誌

平成十年二月 発行

発行責任者 過能 友和

編集責任者 荒木 綾子

発刊 福岡大学学術文化部会書道部

〒814-0133

福岡市城南区七隈八一一九一  
☎092(871)0472

印刷所 (株)プリンティング・アート

☎0940(42)7321